

わが

あの日を忘れず ともに未来へ「東松島一心」

SDGs 未来都市に 東日本大震災の被災地で 唯一選定

東松島市は宮城県の東部に位置し、東は石巻市、南は太平洋に面しています。JR仙石線の駅が8駅、市内を横断する三陸自動車道のインターチェンジが3カ所整備されており、県庁所在地である仙台市まで電車で40分、仙台空港まで車で約50分と良好なアクセス環



松島基地航空祭でハートを描く「ブルーインパルス」

境が整っています。また、ブルーインパルスの母基地である航空自衛隊松島基地が所在しており、本年3月20日には、オリンピックの聖火がギリシャから日本で最初に到着いたします。

平成23年の東日本大震災では、市街地の65%が浸水し、1109

名の方の尊い命が奪われ、24名の方がいまだ行方不明であり、甚大な被害を受けましたが、震災経験を生かした市の創造的復興事業を評価いただき、平成30年6月には、世界的な取り組みである「SDGs(持続可能な開発目標)」を進めるモデル都市の「SDGs未来都市」に、東日本大震災の被災地で唯一選定されました。

震災からの創造的復興

震災後、本市は震災からの復興

実現に向け、住まいの再建を最優先とし、市民の安定した住環境を取り戻すことを目標に、防災集団移転団地の整備などに取り組みでまいりました。現在までに、1101戸の災害公営住宅と7団地717区画の防災集団移転団地を整備いたしました。

また、防災備蓄倉庫を建設し、災害によって物流が止まったとしても、市民が3日間はしのげる量の食糧などを備蓄しています。

さらに、市内の赤井地区という地域で、地域内にある災害公営住宅、運転免許センター、病院などの施設を市独自の電線つなぎ、大手電力が停電になった場合でも、エリア内の太陽光発電による再生可能エネルギーで、最低3日間は自立して電気を供給することができ「スマート防災エコタウン」



全国初のマイクログリッド「スマート防災エコタウン」

を、再生可能エネルギーの新しいモデルとして整備しております。

平成30年8月に実施した移住体験モニターツアーのアンケート結果において、市の震災復興における安心・安全のまちづくりに対する評価が高かったことから、全国各地で大規模災害が頻発する中において、震災から復興した「安心・安全に暮らせるまち」は、本市の大きなセールスポイントであると確信しています。

通年型の観光メニューを 充実させ交流人口を増加

自然環境に恵まれた本市には、松島湾最大の島である宮戸島をはじめとした、都会には無い感動を味わえる観光名所が数多くあります。さらに、既存の観光名所に加え、韓国から始まった自然やその土地の歴史を感じながら楽しめるトレッキングコース「オルレ」の

「宮城オルレ奥松島コース」が平成30年に開設されました。令和元年には54ホールのパークゴルフ場やバーベキュー場を備えた矢本海浜緑地がオープンし、通年で観光



奥松島・宮戸島を巡る「宮城オルレ奥松島コース」

ができるようになりました。

今後、民間の体験型交流施設ならびに宿泊施設と連携し、通年型の観光メニューを官民一体となつてパッケージ化することで、滞在型観光客の増加を図りたいと思っております。

東日本大震災から10年、 市制施行15周年、 活力ある東松島市

全国的に人口減少が進む中、本市においても例外ではなく、3年前と比較すると約500人が減少しておりますが、活力のある東松島市を将来にわたって持続可能な地域としていくために、本市ではSDGsの理念の下、人口減少対策を講じております。

人口減少対策のモデル事業として、市内の中学校旧校舎を活用し、全寮制の私立高等学校を本市に誘致し、本年4月に開校いたします。開校となれば、本市の教育環境の充実のほか、人口減少対策や地域活性化など、さまざまな波及効果が望めると考えております。また、保育所待機児童の解消を図るため、平成30年4月には午後8時までの延長保育を行う民間

保育園が開園しており、本年4月

にも新たな民間保育園が開園する予定です。さらには、18歳までの子ども医療費の無償化、放課後児童クラブの利用時間を午後7時まで延長、学力向上に向け小中学校の夏休みを4日間短縮するなどの取り組みを行っており、安心して子どもを産み、育てられる環境をつくっております。

令和2年度に本市は市制施行15

プロフィール

- ◆ 面積 101.31 km²
- ◆ 人口 3万9775人
- ◆ 世帯数 1万6014世帯

〔将来都市像〕人育み 人輝く 東松島
「心ひとつにともに未来へ」
〔まちの特徴〕縄文の時代の面影を残す奥松島の海と緑。市民協働で持続可能なまちづくりを推進

〔市町村合併〕平成17年4月1日、矢本町と鳴瀬町が合併



東松島市長
渥美 巖



〔特産品〕海苔^{のり}、牡蠣^{かき}、味噌^{みそ}、米、トマト、きゅうり、いちご^{いちご}
〔観光〕大高森、嵯峨溪^{さがけ}、宮城オルレ奥松島コース、里浜貝塚（奥松島縄文村歴史資料館）、滝山公園
〔イベント〕松島基地航空祭、東松島市夏まつり、東松島市鳴瀬流灯花火大会、えんずのわり、滝山公園さくらまつり、鳴瀬かき祭り、青い鯉のぼりプロジェクト、東松島なべ鍋まつり

周年を迎えます。東日本大震災からの復興の完結を目指すとともに、産学官民連携により新しい人の流れを生み出し、本市の活力とにぎわいを維持・発展させ、将来にわたっても持続可能なものとするので、現在居住している市民とこれから移住されてくる方にとって「住んでよし」「訪れてよし」「営んでよし」を実現してまいります。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

「ひと集い 学びあふれる

生涯きらめきのまち つる」の実現に向けて

自然と歴史文化が 織りなすまち

都留市は、古くから山梨県東部地域の政治・文化・経済の中心として栄えた歴史ある城下町で、山梨県の東部に位置し、都心から約90kmの距離にあります。

標高は中心地で490m、周囲は千m級の美しい山々に囲まれ、桂川（相模川）が市域の中央を西



令和元年にオープンしたサービス付き高齢者向け住宅「ゆいま〜る都留」

から東に貫流し、本市の主要な平坦地はこの河川に沿って帯状に形成されています。また、人口3万人規模のまちに、都留文科

大学看護学部、県立産業技術短期大学の三つの高等教育機関があり、その学生の総数は3500人を超えることから、本市の全人口の約9人に1人が大学生という学園のまちでもあります。

**まちづくりを進める
五つの重点施策**

本市では、平成28年度より、11年間にわたるまちづくりの指針である第6次都留市長期総合計画をスタートさせ、実践的で効果的なまちづくりに積極的に取り組んでいます。

この長期総合計画では、重点的に取り組む施策を「リーディング・プロジェクト」として位置付けており、五つの柱を立て、まちづくりを進めています。

一つ目の柱は「生涯活躍のまち」

つる事業」です。

本市の地理的・歴史的・教育的・健康的な強みを生かし、市内に立地する都留文科大学、健康科学大学看護学部および県立産業技術短期大学の3大学などと連携して、生きがいや交流を図ることにより、生涯にわたりいつまでも元気で暮らすことのできる、大学連携型の「生涯活躍のまち・つる事業」を推進しています。

この事業では、平成28年に取得した「旧雇用促進住宅下谷宿舍」の土地および建物を、公募により選定した民間の事業者が賃貸し、事業者がサービス付き高齢者向け住宅に改修・運営する「単独型居住プロジェクト」と、都留文科大学に隣接するエリアに、居住環境を複合的に整備する「複合型居住プロジェクト」の二つのプロジェ



新たな観光拠点「道の駅つる」

クトを推進しています。

令和元年9月末には、単独型居住プロジェクトを構成する、サービス付き高齢者向け住宅「ゆいま〜る都留」（2棟80室）、ならびに同敷地内に整備した地域の交流拠点施設「下谷交流センター」がオープンし、新たなコミュニティが形成されています。

二つ目の柱は「道の駅を核とした地域活性化」です。

平成28年11月に「道の駅つる」がオープンしました。就農者の一定の所得向上が見られ、地域産品



全国から学生が集まる都留文科大学

の確実な販路が確保されました。また、本市の観光情報の発信拠点として、観光客の増加にも結びついています。

今後は、つる観光戦略を指針に、観光イメージ戦略や道の駅つるを観光情報発信の拠点とする「道の駅つる活用戦略」の策定など、観光PRを進め、観光産業の活性化を図っていきます。

三つ目の柱は「『教育首都つる』のさらなる発展」です。

都留文科大学との連携により、授業の補助や放課後学習支援を行

う学生アシスタントティーチャーを、全ての小中学校で導入しており、教育者を目指す学生と、子どもたちが共に学び合うことができる特徴的な事業を展開するなど、本市の特性を生かしたさまざまな子育て、教育施策を展開しています。

市内に立地する各教育機関との連携を図り、誰もがいつでも、どこでも学べる環境の整備を行い、教育を軸としたまちづくりを推進しています。

四つ目の柱は「心豊かに暮らせるきらめきのまちづくり」です。

産科分娩^{ぶんべん}の再開のほか、健康ポイント、高齢者の「いーばしょ」づくり、健康ジムなど健康長寿のための施策や、地域包括ケアの充実など介護施策も強化しています。

本市に暮らす全ての方々が、生き生きと心豊かに暮らせるように、ライフステージに合わせたさまざまな支援策を講じ、きらめきのまちを実現させています。

五つ目の柱は、安全・安心なまちづくりを推進する「セーフコミュニティの推進」です。

地域防災力の強化、まちの担手の発掘・育成と地域コミュニティの強化にも努めており、その

推進力として、子どもからお年寄りまでの、全ての市民の皆さまや

関係機関、そして行政が連携・協働して「安全・安心に暮らせるまちづくり」を進める「セーフコミュニティ」の取組を進めています。

生涯きらめきのまちの実現を目指して

今後、本市の目指すべき将来像「ひと集い 学びあふれる 生涯きらめきのまち つる」の実現に向け、人口減少・少子高齢化が

進行する中でも、それを克服する

ための産業や雇用の創出、移住定住策などを積極的に展開することにより、また、都留文科大学をはじめ教育機関が集中することにより、多くの人が集い、子どもからお年寄りまでの全ての世代が、本市の地域特性を生かして、生き生きと学び、自己のため、そして、まちのために活躍し、相互に高め合い、いつまでも元気で、生涯を通して、きらめくような人生を送れるまちを目指します。

プロフィール

- ◆ 面積 161.63 km²
- ◆ 人口 3万233人
- ◆ 世帯数 1万3186世帯

〔将来都市像〕ひと集い 学びあふれる 生涯きらめきのまち つる

〔まちの特徴〕山梨県東部地域の政治・文化・経済の中心として栄えた歴史ある城下町



都留市長 堀内富久



〔特産品〕水かけ菜、わさび、わさび漬、富士湧水ポーク、甲斐絹、曾雌^{そへ}にんにく
〔観光〕田原の滝、蒼竜峡、太郎・次郎滝、道の駅つる、芭蕉月待ちの湯
〔イベント〕ふるさと時代祭り、お茶壺道中行列、つる産業まつり、リニアと翔る都留ロードレース大会

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

魅力創造都市 伊勢 選ばれるまちへ

交流により育まれた
「おもてなしの心」

伊勢市は、古くから「お伊勢さん」「日本人の心のふるさと」と呼び親しまれてきた神宮鎮座のまちとして栄え、「おかげ参り」が流行した江戸時代には、当時の日本人の6人に1人が伊勢を訪れたと



多くの人を訪れるおほらい町（伊勢神宮・内宮前）

いわれています。「伊勢に行きたい 伊勢路が見たい せめて一生に一度でも」と伊勢音頭にうたわ

れているように、伊勢参りは多くの人々の憧れでした。全国各地から神宮を目指して、大勢の人々が訪れたことで情報が集積し、独自の文化が形成され、人々の間にはさまざまな交流が生まれました。この交流の歴史が多様な活動の場をつくり、伊勢の人々に「おもてなしの心」が培われ、現在まで継承されてきています。

市では、おもてなしの心とまちを活性化する諸施策などにより、魅力的で選ばれるまちになるための取り組みを進めています。

観光でまちの活力創出

豊かな自然環境や歴史的資源に恵まれた本市には、毎年800万

人を超える観光客にお越しいただ

いています。観光の活性化による効果がさまざまな業種に波及し、観光業はまちを支える大きな柱の一つとなつていきます。そうした中、本市の観光施策は「インバウンド観光」「スポーツ観光」「バリアフリー観光」の3本柱で進めています。

インバウンド観光は、外務省のジャパン・ハウスの活用を見据えた取り組みや地元皇學館大学との協働による外国人留学生招聘事業による情報発信、JNTO（日本政府観光局）認定外国人観光案内所カテゴリ2の取得などにより、伊勢志摩サミットを機に増加した外国人観光客のさらなる誘客を目指すものです。

スポーツ観光は、本市が誇るフットボールヴィレッジや野球

場、庭球場などのスポーツ施設を活用し、大会・合宿などを誘致し、誘客を図る取り組みです。

バリアフリー観光は、バリアフリーマップの作成や有償ボランティア「伊勢おもてなしヘルパー」による伊勢神宮内宮の参拝サポートなどの取り組みにより、障がいがある方などに市の観光を満喫してもらおうとするものです。

子育て・教育環境の充実

一方、全国の多くの自治体と同様、人口減少が進行する中、総合的な少子化対策として、結婚を希望する人の出会いの場の創出から切れ目のない子育て支援、健康・医療、教育環境の充実に取り組んでいます。

「いせ出会い支援センター」において、出会いや結婚に関する相談対応を行うとともに、従業員の出会い・結婚を支援する企業のネットワークを構築するなど、官民連携して支援を行っています。また、不妊・不育治療に係る医

療費を助成するとともに、保健師などが中心となって妊娠期から出産・子育て期まで切れ目のない支援を行う「ママ安心サポートいせ」の取り組みのほか、「こども発達支援室」において、子どもの発達や育ちなどに関する相談への助言や必要なサービスなどを行っています。

令和元年は、「御園^{みその}子育て支援センターぷらむ」を新設し、地域の子育て支援機能の充実に努め、また、保育所などの業務をICT化し、利用者の利便性の向上なども進めました。

教育環境では、A・L・Tによる児童向け英語体験教室の実施、小学生への英語検定料の助成、就学前英語活動支援などの外国語教育を充実させるとともに、タブレット型パソコンの配置、次世代型教育系ネットワークの構築など、県内屈指のICT環境を活用した教育を推進しています。



ICT教育の授業の様子（小学校1年生、算数）

選ばれるまちづくりに向けて

令和元年は、御代^{みよが}替わりに伴う行幸^{ぎょうこうけい}啓もあつたことから、本市も大変注目を浴び、令和元年の年間の神宮参拝者数は約973万人（対前年比約122万人増）、本年の正月三が日の参拝者数は約56万人（対前年比約4万人増）と、本当に多くの方々にお越しいただきました。

そして、本年は、いよいよスポーツの祭典、東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。本市は令和元年8月にラオス人民民主共和国を相手国とする「共生社会ホストタウン」の登録を受けており、パラリンピアンとの交流をきっかけに本市が進める「障害者差別解消法」に対応した



バリアフリー観光の一環で、伊勢おもてなしヘルパーが参拝サポートを実施

「人に優しいまちづくり」に関連した取り組みを加速させるとともに、インバウンド観光などの施策をさらに推進していきます。

また、令和3年に開催を控える「三重とこわか国体・とこわか大会」に向けた機運をますます盛り上げながら、全庁的なシテイプロモーションにより、こうした本市の魅力ある取り組みや優位性を市外・国外、そして市民の誇りや愛

プロフィール

- ◆ 面積 208.35 km²
- ◆ 人口 12万5462人
- ◆ 世帯数 5万5526世帯

〔将来都市像〕つながりが誇りと安らぎを育む 魅力創造都市 伊勢

〔まちの特徴〕三重県の中東部に位置し、伊勢志摩国立公園と国の名勝に指定される二見浦や清流宮川が流れる自然豊かな環境と、神宮御鎮座の歴史・文化にあふれるまち

〔市町村合併〕平成17年11月1日、伊



伊勢市長
鈴木健一



勢市、二見町、小俣町、御園村が合併
〔特産品〕伊勢うどん、伊勢たくあん、伊勢玩具、伊勢一刀彫、伊勢根付、伊勢春慶、伊勢和紙、餅菓子
〔観光〕伊勢神宮、神宮徴古館・農業館、伊勢志摩スカイライン、おほらい町、伊勢河崎商人館、夫婦岩
〔イベント〕伊勢楽市、伊勢神宮奉納全国花火大会、伊勢まつり、野口みずき杯中日三重お伊勢さんマラソン

着を醸成するため市内へも積極的に発信し、重点的に施策を進めていきます。
今後とも皆さんから「訪れたい」「そして「住みたい」「住み続けたい」と思われる「選ばれるまち」になるため、おもてなしの心による観光振興で地域の活力向上を目指し、人口減少に歯止めを掛けながら、誰をも魅了するまちづくりの推進を一層図ってまいります。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

ものづくりと連携した 子育てと教育のまちへ

紡がれてきた歴史

広島県府中市は、約1300年前、大化の改新後に備後の国（現在の広島県東部）の国府が置かれた地で、政治の中心地として栄え、江戸時代以降は、山陰地方から山陽地方へとつながる石州街道が市を縦断し、周辺地域の経済・文化の要衝の地として発展してきました。宿場町として栄えた上下地域や、府中市街地では、歴史ロマンあふれる町並みに出合えます。また大自然が市街地から程近く、気軽に山林や溪谷を四季折々に満喫できるのも魅力です。国府所在に由来する「府中」という名の市町は全国にあるため、「備後府中」と呼ばれています。

ものづくりのまち府中

本市発展の歴史を支えてきたの

は、ものづくり産業です。市内には、創業100年を超える企業が広島県内全体の1割に当たる約60社も存在しているように、人情味豊かな中に、進取の気性を持った人々の努力によって、家内工業から重化学工業へと多彩な産業が発展してきました。

府中家具、鍛冶・鋳物、府中味噌、木工・繊維・機械・金属・化学、ドローン（無人航空機）などの多種多様な地場産業がバランスよく集積し、オンリーワン・ナンバーワン企業が全国や世界に向けた事業を展開しています。特にダイカスト製品、旋盤用パワーチャック、ドローン、ゴムタイヤなど、日本一を誇る工業製品が多数あります。

また、本市の「ものづくり」産業の中でも高級婚嫁家具の産地として全国的な知名度を誇る府中家



東京都千代田区神田小川町に設置した「府中市アンテナショップNEKI」

具は、約300年もの歴史ある伝統産業で、府中の名を冠したブランドであります。現在は、受け継がれてきた匠の技術を生かし、リビング・ダイニング・キッチン家具へ展開するなど、新しい分野へも挑戦しています。

この他、味噌、繊維製品、スニーカーなど多種多様な府中ブランドを東京で広める拠点として、平成

29年8月に東京都千代田区神田小川町に「府中市アンテナショップNEKI（ネキ）」を開設しました。店内では、B・1グランプリでも人気を集める「備後府中焼き」を提供する飲食スペースや300アイテム以上の特産品をそろえ、本市の「食・産業・観光」を東京で体験できる場となっています。

次代を担う子どもたちのために、教育のトップランナーを目指す

本市では、次世代を担う子どもを育てるため、0歳から20歳までの一貫した子育て、教育を行っています。府中版「ネウボラ」では妊娠から子育てまでワンストップで相談などに応じる体制ができており、また幼保小から中高までをつなぐカリキュラム作成など、組織や枠組みを超えた取り組みを積極的に進めているところです。

その中で、教育による人づくりは、次なる時代を切り開く原動力であると捉え、本市の教育大綱に



全国コミュニティ・スクール研究大会の様子

成31年4月に全校に設置され、学校ごとに、地域、企業が積極的に関わり、ものづくりとも連携した本市ならではの取り組みが進んでいます。また同年8月には、本市で「2019全国コミュニティ・スクール研究大会」

示す、「可能性に挑戦し、チャンスを活かす資質・能力の育成」を目指しています。そして、市内全10校の小学校、中学校、義務教育学校が四つの学園を構成し、「小中一貫教育」を実施するとともに、全学校がコミュニティ・スクールを導入しています。

小中一貫教育については、より充実した学びを子どもたちに届けるため、義務教育学校あるいは併設型小中学校へ移行し、各学園とも特色ある取り組みを進めています。義務教育学校では4・3・2制、4・5制といったステージ制を導入して、子どもの発達段階に応じた教科担任制などにより自己肯定感・学力の向上に取り組んでいます。

びんご府中」を開催し、全国に本市の取り組みなどを発信することができました。また、これまでの取り組みが評価され、本年度府中明郷学園が文部科学大臣表彰を受けました。これらの勢いを継続させ、さらに充実した取り組みを展開してまいります。

また、環境面でも教育の充実を図っており、令和元年8月までに全ての学校の空調設備が整い、子どもたちにとって快適な環境下で学習に取り組めるようになりました。さらに、Society5.0時代を生きる子どもたちの学びの充実を図るために、令和2年度にかけて、児童生徒に1人1台の端末整備や校内LAN整備、高速ネットワークの整備など、学習環境のさらなる充実を図ることや、本市の特色を生かした独自のドローンを用いたプログラミング教育を実践していきたいと考えています。

今後も先進性や独自性を加味した学びや学習環境の充実を図り、教育のトップランナーを目指し、取り組んでいきます。

未来に向けて

これからの社会経済情勢の変

化を的確に読み取り、かつ予測しつつ、市民が誇りを持ち、市外から「選ばれる府中市」を目指して、現在策定中の「第5次府中市総合計画」をはじめ、産業ビジョンや観光ビジョンなどに掲げる各種施策の実現に向けて、オール府中でまちづくりを進めていきます。

プロフィール

- ◆ 面積 195.75 km²
- ◆ 人口 3万8998人
- ◆ 世帯数 1万7418世帯

〔将来都市像〕笑顔で豊かな暮らしができる府中市へ支えあい、みんなで創る府中愛（現在第5次府中市総合計画策定中）

〔まちの特徴〕創業100年を超える「ものづくり」の企業が多数あり、全国でもトップレベルの教育がある「ひとつづくり」のまち

〔市町村合併〕平成16年4月1日甲奴郡上下町を編入



府中市長
小野申人



〔特産品〕備後府中焼き、府中味噌、ごぼう、洋酒ケーキ、つちのこ饅頭、府中家具、ドローン、スニーカー

〔観光〕道の駅びんご府中、恋しき首無地蔵、羽高湖、三郎の滝、河佐峡、翁座、四季の里、府中市アンテナショップ PNEKI

〔イベント〕府中学びフェスタ、府中☆産業博、上下あやめまつり、備後国府まつり、羽高湖畔フェスティバル、天領上下ひなまつり



令和元年9月にプレオープンした、府中版ネウボラを担う「子育てステーション」

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。